西日本豪雨で起きたこと 被害状況について。

梅雨前線を伴う記録的な豪雨。7月6日から7日にかけての「100年に一度」と言われるほどの大雨により、無茶々園の生産者及び関係者でもかつてないほどの被害を受けました。

家屋や倉庫への被害のほかに農業施設への被害が大きく、被害箇所は把握しているだけでも200か所近くになっています。園地被害は31,000㎡を越え、折れるなどした樹は2,000本以上。収量にして17,000kgを越えると考えられています。また流れ出た土砂により潅水用の配管やポンプ、トラック、その他農機具が破損が報告されています。収穫した果実を運ぶためのモノラックの破損も多く、収穫作業に影響が出ることは必至です。生産者自ら修理を行いつつ、一日でも早い復旧を目指し、行政とも連携しながら被害調査を進めています。

園地に加え家屋の床下・床上浸水、倉庫や事務所の浸水などの被害があった ものの、人的な被害がなかったこと。これが何よりでした。



明浜の土砂崩れの様子。果実を運ぶモノラックやレールも多数被害を 受けた。農道を覆う大量の土砂。崩れた石積みに言葉が出ない。

海産物への影響は。

豪雨によって発生した土砂崩れの被害は園地だけにとどまりません。土砂が 多量に流れ込んだ海では赤潮が発生しました。この時期に核入れした佐藤真 珠のアコヤ貝は3~4割が死滅したことがわかっています。無茶々園と直接 の取引はありませんが、宇和島市の養殖場では魚の大量死が報告されており 漁業関連の被害も計り知れません。もうすぐ始まるちりめんの秋漁に影響が でないことを祈るばかりです。

宇和町に工場を構え、じゃこ天を作っていただいている伊予蒲鉾でも一部設備が水没し、一時製造・販売を中止していました。現在は新たに機械を購入し営業を再開しています。

塩蔵わかめの製造元である伊藤水産は被害の大きい吉田町にあり、自宅及び 倉庫内に土砂が流入しました。残念ながら8月末現在、復旧の目途はたって おらず塩蔵わかめの販売は在庫限りで終了し、設備が整ったのちに販売を再 開する予定です。



真珠の貝と伊藤水産・伊藤さん。水産関連の被害も計り知れない。

吉田町の様子。

明浜町の隣に位置する、宇和島市吉田町。報道されているとおり県内でも甚大な被害地域のひとつであり、無茶々園生産者の園地でも大きな土砂崩れや倉庫への土砂流入が報告されています。全国から多数のボランティアの方々が来てくださり支援の輪が広がっている一方で、園地の喪失により後継者が農業を諦めるようだ、との声も聞こえてきています。愛媛県の柑橘発祥の地である吉田町。同じく農業に関わる者としてどのような支援ができるのかを考えていく必要があります。



吉田町の園地。被害規模にただ茫然とするばかり。浸水を受けた倉庫は中身をすべて出して片付ける。吉田町の生産者4名。現地確認の一場面。

消費者会員の皆様へ。

平成30年7月7日の豪雨災害では、当初よりご心配・励ましのお言葉を全国の方からいただき、ありがとうございました。重ねて皆様へのご報告が遅くなりました事をお詫び申し上げます。

7月の豪雨当日は、ここ明浜町でも早朝より300ミリを超える雨が降り続きました。町内各所で土砂崩れや川の氾濫が相次ぎ、多くの生産者が地元消防団として住民の避難・土嚢の運搬・地区の見回りへと駆り出されましたが、誰も経験した事が無い雨量で、大自然の前ではただただ見守りながら雨が早く止むのを祈る事しかできませんでした。

翌朝より被害の調査・復旧作業が始まり、不幸中の幸いにも無茶々園の農家はもちろん、明浜住民の人命に被害が出なかった事が本当に良かったです。一方みかん山では、あちこち土砂崩れ・農道崩壊が起こっていました。無茶々園の農家でもモノラックは動力も含め約60台、レール約1.5kmの被害がわかっており、その他みかん畑の崩壊・潅水施設の配管の破損等、復旧にはかなりの時間がかかると思います。

今、我々農家は復旧作業と普段の農作業をしているところですが、それでも 秋の収穫は刻々と迫っています。私たちはみかんを通じて、皆様に元気な事 と感謝の気持ちを伝えたいと思っています。

それでは今しばらくお待ちください。



